

令和 7 年度 第 2 回瀬戸市環境審議会 議事録

開催日時：令和 7 年 9 月 26 日（金）午後 2 時 00 分から午後 4 時 00 分まで

開催場所：瀬戸市役所 4 階 大会議室

出席者：9 名

欠席者：3 名

傍聴者：1 名

事務局：市民生活部長、環境課長、環境課長補佐、ごみ減量係長、環境保全係長、環境保全係主任、業務委託者

資料：資料 1 配席図

資料 2 瀬戸市環境審議会委員名簿

資料 3-1 第 3 次瀬戸市環境基本計画中間評価・改定及び瀬戸市生物多様性地域戦略（案）

資料 3-2 庁内調査結果 01_環境基本計画調査票

資料 3-3 庁内調査結果 02_地球温暖化対策実行計画（区域施策編）調査票

資料 3-4 セと環境塾アンケート票（案）

資料 4 令和 7 年度版 瀬戸市環境基本計画年次報告書（案）

資料 5 山路町内の産業廃棄物の最終処分場設置計画に係る瀬戸市自治連合会対応について

議事結果

(1) 第 3 次瀬戸市環境基本計画中間評価・改定及び瀬戸市生物多様性地域戦略（案）について

事務局から、資料 3-1「第 3 次瀬戸市環境基本計画中間評価・改定及び瀬戸市生物多様性地域戦略（案）」に基づき、説明を行った。

【意見等】

委員長：本日の審議で、どこまで決めるべきか。

事務局：本日いただいたご意見を受けて、来年の 1 月からを予定しているパブリックコメント案を作成する。11 月に再度その案を確認いただく予定である。

委員：p. 11「「愛知目標」の教訓をふまえつつ」とあるが、教訓について書かれておらず解りにくいため、記載内容を検討いただきたい。現計画から削除する箇所にも書かれている。

委員：p. 15「一方で、一部の森林では、大規模な開発などによる・・・」の一文を解りやすい言葉で記載いただきたい。「林業経営体が存在しない」とは何か。

p. 27 廃棄物処理の状況の「同じく、資源化率は・・・」の一文について精査いただきたい。「資源化率」の意味を記載したほうが良い。「21. 8%」は正しいか確認いただきたい。「ほぼ横ばい傾向となっています。」は「ほぼ横ばいです。」としてほしい。

副委員長：p. 13「地域循環共生圏」の説明が必要。現計画では、p. 31 で説明している。特に、瀬戸市は市街地と自然の関係性があるので、市民の方に解りやすく示した方が良い。

p. 19 主な自然観光資源の入込客数は、注で 2016 年度から統計の方法が変更されたとしている。2015 年度を削除し、2016 年度から掲載したほうが解りやすい。

委員：p. 40「環境配慮に取り組んでいる事業所の数」が、当初値 115 から 2024 年度実績 82 に減少している理由は何か。

事務局：当初値 115 は、瀬戸市環境パートナーシップ事業者会議の「瀬戸環境にやさしい事業所認定制度」がほとんどを占めていたが、3 年ごとの更新をしない事業者が増えたため実績値が減少した。

委員：更新しない理由は把握しているか。

事務局：当時の事業者会議では、「メリットを感じられない。」との意見をいただいた。

委員長：現計画では、第2次計画の総括に記載していたが、「瀬戸市環境パートナーシップ事業者会議」は20年以上の歴史があり、極めて先駆的であったと思う。現在の「サステナブルせと」に至る、市民、事業者のネットワークの歴史を記載すると良い。

産業廃棄物について、県下で民間の産業廃棄物最終処分場のおそらく7割以上が瀬戸市である事実を、記載すると良い。

事務局：p.11「「愛知目標」の教訓」については、解りやすく修正する。

p.15「林業経営体が存在しない」とは、山林組合、林業組合といった団体が存在しないとの意味である。

委員長：「森林組合や民間の林業経営者が存在しない」としてはどうか。

事務局：p.27「資源化率」については、グラフで解るように修正する。

委員長：資源化率の「定義を本文中に入れる」、「横ばい傾向にとどまっている」と記載、「グラフに値を表示」してはどうか。

事務局：p.13「地域循環共生圏」は説明を補足する。

p.19 主な自然観光資源の入込客数は、2016年度から掲載する。

パートナーシップ型組織の変遷については、コラム等の掲載で検討する。

産業廃棄物は、p.28に事実としての記載を検討する。

委員長：用語集は引き続き掲載するのか。「地域循環共生圏」は、注で記載するか、用語集に付け加えるが良い。

副委員長：p.50「環境学習ツールの提供」が年1回なのはなぜか。学校へのツールの提供が年1回か。

p.62「Z E B0riented」などの横文字が多いので、用語集などで解りやすくすると良い。また、「Z E B0riented」は、延べ床面積10,000㎡以上の施設の基準であったと思うが、現実的に瀬戸市で建築する予定があるのか。

事務局：p.51「環境学習ツールの提供」は、毎年1回以上、学校や地域に提供するという意味である。

昼休みの校内放送として、自然環境に関するラジオドラマをCDで配布したことがある。1度提供することで1回とカウントする。また、名古屋産業大学様と作成した生物多様性のカードゲームを学童で採用いただいた。ゲームの貸出も1回とカウントする。

副委員長：カウントの仕方であるが、1回提供依頼があれば達成できる目標は再検討いただきたい。例えばプログラムとして計画して全小学校に配布するなど、一体的な取組をカウントするのはどうか。

事務局：p.62 横文字については、解りやすく修正する。「Z E B0riented」については、「にじの丘学園」がZ E B0rientedを取得しており、延べ床面積にかかわらず、学校等の大きな公共施設はそれ以上を目指すということで記載している。

委員長：p.62の余白に、Z E B0riented等のポンチ絵を入れたらどうか。

委員：p.65「「せと環境塾」の講座満足度」について、資料3-4せと環境塾アンケート票（案）問4期待どおりのものであったかの問いに対して、どのような期待をもって参加されるかは様々だと思う。申し込むときや当日に、どのような期待があるか声を集める機会があるか。「期待以上」であった場合はどこに○を付けるのか。あいまいな問いであるため再考いただきたい。講師として参加する場合も、どのような期待をもって参加されるかデータを得るチャンスだと考えている。

p.4 位置づけの図で、環境基本計画と関連計画との矢印が、相反するものを示すように見える。相互に影響することがわかるように、矢印を分けてはどうか。

委員：p.50「森林の総面積」をできる限り横ばいに持っていくというのは、市の取組だけでは達成が難しい目標と考える。

「オオサンショウウオ保全活動」は実施回数で、アウトプットの目標である。交雑種の問題もあるので、例えば在来種の個体数、交雑種の個体数等で示せば、前段の環境課題に応える目標になるのではないかと。数値としてとれるか不明だが、検討いただきたい。

p.65「環境配慮に取り組んでいる事業所の数」は、根拠とする数値が当初と異なるため、当初値を示すか検討いただきたい。

事務局：p.65 せと環境塾のアンケートについては、来年の4月以降のせと環境塾で反映する予定であるため、良い方法を検討したい。

p.4 位置づけの図の矢印は、関連計画であることが誤解なく伝わるように修正する。

p.50「森林の総面積」は、瀬戸市の取組だけで面積を増やすのは難しいが、瀬戸市の環境を保全する上で森林は重要と考えているため、経過を確認する意味で、この指標は継続したい。

「オオサンショウウオ保全活動」では、捕獲した個体を一時保管して、在来種を残す取組をしているため、指標として活用可能か担当課に相談する。

p.65「環境配慮に取り組んでいる事業所の数」の当初値は検討する。

委員長：オオサンショウウオの個体数は、在来種と交雑種ともに、保全として意味のある数値であるため、どちらも指標にすると良い。

委員：p.50「環境学習ツールの提供」の効果確認のアンケート等は行っているか。

事務局：小学校の校内放送については、アンケートを配布しており、先生を通じて児童の感想をいただいている。カードゲームについては、効果検証できていない。

委員：環境や生物多様性を知る機会となる良い取組のため、効果を検証しながらブラッシュアップしていった方がより環境計画に近づくと思う。

委員長：p.49 施策体系の「基本方針」は「項目」であって、基本方針は各項目の頭の文章「・・・を進めます。」ではないか。図の表現方法を検討いただきたい。

委員：p.54 自然共生サイト認定に関する情報提供とあるが、情報提供の方法は、マッチングか認定を促すものか。

p.65「環境配慮に取り組んでいる事業所の数」の対象とする事業所に、自然共生サイトの認定を受けた事業者、認定された自然共生サイトを支援している事業者を加えると良い。例えば、自然共生サイトに認定されている海上の森を支援した場合、環境省から証明が出る。認定サイトを支援した事業者をカウントしてはどうか。

事務局：制度を市の広報で周知する。加えて、サステナブルせとの事業者に対して、認定を促したいと考えている。

自然共生サイトを支援している事業者の数の把握が可能な場合は、「環境配慮に取り組んでいる事業所の数」の対象としても良いと思う。

委員長：可能であれば、対象として加える方向で検討願いたい。

p.71 から記載している重点施策のスケジュールについて、中間見直しであるため、前期の達成状況を表現できると良い。できた、できなかったで、矢印の色を変えてはどうか。難しいかもしれないが、検討いただきたい。

委員：環境課のInstagramを拝見した。登録者数は現況値（2024年度）より増えていて素晴らしいと思うが、トップページのリンクから接続できないページがあるのがもったいない。

委員長：重点施策は、削除したものはなく一部修正と追加であるが、ご意見はないか。

委員：p.54「自然共生サイト」の説明が必要だと思う。

p.62 記載内容に異論はないが、愛知県では、省エネ相談を行っており、設備更新や補助金の支援を行っている。

瀬戸市の商工業分野では、働き方改革に沿った省力化や IT 化の視点での取組に対する支援を行っている。

環境課でも支援していただけるのはありがたいと思う。具体的に事業をされる場合は、商工部署と調整いただき、商工会議所とも連携をとっていただいて、可能ならば単独ではなくあわせて実施いただけたらより効果的だと考える。

事務局：中小事業者を対象とした取組は、商工観光課と連携しており、商工観光課の取組を環境基本計画に反映する。

委員：「環境配慮に取り組んでいる事業所の数」を増やす方法について、「サステナブルせと」としては、商工会議所の青年部や組合などに活動を促す形で提案していきながら、活動する一步を踏み出す手助けの様なことを提案していくことが必要と感じた。

委員長：p.63 気候変動適応計画の策定は、後期の期間中に策定する予定か。環境基本計画に追加する自治体もあるがいかがか。

事務局：気候変動適応計画の策定期間は未定であるが、第4次計画に向けて、どのような対応ができるか検討していきたい。

委員長：策定するにあたって、庁内各課に照会しても関心をもていただけない場合があるので、頑張って網羅的に策定いただきたい。

委員：せと環境塾について、LINE の公式アカウントでも周知しているか。

事務局：参加者の集まりが少ない場合は、市の公式 LINE でも周知している。

委員：環境や生物多様性に興味がある人を増やしたいのであれば、公式アカウント等で関心がない人にも周知できると良いと思う。

委員長：1週間程度の間で確認いただき、お気づきの点があれば、事務局まで連絡ください。

事務局：改定までのスケジュールについて。11月25日の環境審議会で、本審議会でご意見を反映したパブリックコメント案を審議いただく。令和8年1月上旬から2月上旬にパブリックコメントを実施、その結果を反映した計画案を答申いただき、令和8年3月に改定する予定である。

(2) 令和7年度版瀬戸市環境基本計画年次報告書（案）について

事務局から、資料4「令和7年度版 瀬戸市環境基本計画年次報告書（案）」に基づき、説明を行った。

【意見等】

副委員長：p.34 太陽光発電で休止中となっている施設があるが、どのような状況かご教示いただきたい。

事務局：各施設に、休止の理由の状況や今後の動向の確認はできていない状況である。

副委員長：太陽光パネルの処分の問題は、大きく取りざたされている。公共施設であるため、どのように処理していくか気になる。

p.33 廃棄物の令和6年度の値について、一人当たりの排出量が増え、資源化率が減少している理由をご教示いただきたい。

事務局：令和6年度の「一般廃棄物処理基本計画」の新計画移行に伴って、集計方法を一部見直した。晴丘センターに持ち込まれる廃棄物を、従前は事業系の廃棄物としていたが、実態にあわせて家庭系の廃棄物として集計することとした。そのため、一時的に家庭系の廃棄物が増加したように見えるが、廃棄物の合計の値は減少している。誤解がないように修正する。

委員長：表の罫線を令和5年度と令和6年度の間だけ波線にしてはどうか。

従前は、事業系一般廃棄物としていたが、現在は区別しているのか。

事務局：事業系の方の持ち込みもあるが、7～8割は家庭からの持ち込みである。当初は、事業系の持ち込みのみと想定していたが、この20年のうちに変化してきたこともあり、家庭系に変更した。

なお、一部事業系が混ざっているが区別はしていない。

副委員長：集計方法の変更を踏まえても、家庭系の廃棄物は増加しているのか。

事務局：令和5年度までの集計方法であれば、令和6年度の家庭系の廃棄物は20,953t程度であるため、大幅に減少している。

委員長：事業系廃棄物として扱われていた家庭系廃棄物を令和6年度に振り替えたということか。

年次報告書の資源化率の計算式を、環境基本計画の資源化率の注に記載すると良い。

なお、廃棄物の区分と集計の仕方は、市町村によって異なる。

事務局：今度のスケジュールについて。本日のご指摘を踏まえて修正し、市のホームページで公表する予定である。

報告事項

(1) 山路町内の産業廃棄物の最終処分場設置計画に係る瀬戸市自治連合会対応について

事務局から、資料5「山路町内の産業廃棄物の最終処分場設置計画に係る瀬戸市自治連合会対応について」に基づき、瀬戸市自治連合会 副会長より報告いただいた。

【意見等】

特になし

傍聴者意見

傍聴者から発言があった。

以上